

■ヨルダン：同国初となる原子力発電所の立地検討を開始

ヨルダン原子力委員会(JNEC: Jordan Nuclear Energy Commission)の Khaled Touqan 議長は 2009 年 10 月 13 日、建設が予定されている同国初の原子力発電所について、立地地域の選定作業を開始した旨を発表した。同氏は、IAEA と協力しながら人間や自然に対して無害で信頼性が高く安全な地域を選ぶとしている。この選定は今後 2 年間で行われるもので、調査にはベルギーのトラクトベル・GDF スエズ、フランスのビューロー・ベリタス、ヨルダンのアラブ・コンサルタンツ・ビューローといった各国のコンサルタント会社が参加している。なお、立地候補地としては冷却水の確保に有利な紅海沿岸地域が有力で、具体的には同国南方のアカバの東方約 10km～20km の地点が検討中である。発電所の規模は 750MW～1,000MW、運開期限は 2020 年を目標としている。ヨルダンはフランス、ロシア、中国、アルゼンチンとの間で原子力協力協定を締結している。